

第3回 西東京市男女平等参画推進フォーラム

樋口恵子さんから元気をもらいました

講演会「人生100年 変わる女と男の生き方」2月14日

会場につめかけた聴衆は約250名。その大半は樋口さんの長年の活動と主張に共感を寄せてきた中高年層。「人生100年変わる女と男の生き方」のタイトルに引きつけられる世代でもある。まず体験に基づくご自身の活動の原点から。そして差別の歴史や社会の変遷と人々の暮らしを樋口さん一流のウィットを交えながらひもとき、人生100年、女も男も共に人間らしく暮らせる社会のありようと、これからの生き方について熱く語られた2時間半だった。

時事通信社勤務の時代に、男性社員のセクハラ発言に言い返せなかったという樋口さん。若かったから、ということもあるだろうが、五〇年前の頃は女も男もセクハラということをはほとんど意識していなかった。でも居心地の悪さを感じていたそう。古い男女観の中で育ち、ずっと樋口さんと同じような思いをしてきた私は、若いときの樋口さんに親近感をもった。そして、女が変わるといって、つまり女の地位が上がるということとは、

食生活から自分の身のまわり全てを妻に依存し、定年後はテレビの前のもう一つの備品と化してしまう男性は、妻に先立たれると生きていけない。またそんな男性を夫にもつ妻も長生きできないという。定年後の人生も共に幸せに長生きするには、お互い自立し、自律して生きていくことのように。人の生き方は急には変わらない。今から心がけよう。自分の生き方だけではなく、子育てにおいても幼いうちから自立した生き方を身につけさせなければと思った。(市川敏子)

団塊世代の私たち。夫はひたすら仕事に没頭、私は子育て・PTAや地域活動...と、夢中でくらししてきた。そしてふと気がつけば五〇代半ばすぎ。何を次の世代に伝えてきたかと自問する。次第に老いる身で親たちを支えるこれからの超高齢化社会をどう生きるかと考える。「介護も人権として捉え、量から質へ自立から尊厳へ、ひとりひとりの人生を支える制度への転換」は私たちの意識にかかっている。生命を守り地域を再生させる原動力に団塊世代の知恵と力を発揮させなくては...。何しろ人生は一〇〇年、かなりの自覚的エネルギーが必要だ。「目標と志をもち男女や世代を越えて結び合う、よき人生」をおくるためにも、まずは健康な体力・気力・知力を養い失わぬ努力をしようと思っただ。(齋藤三枝子)

男にとっても幸せなことなんだと、改めて思った。「人生一〇〇年...」というタイトルからもわかるように、元氣の出る講演会だった。(古賀節子)

【嫁】ほんとうに義親をみつりたいですか

上野いづ子著/ユック舎/1545円

義母の病気に介護が必要になり始めた頃から、それまで意識していなかった「嫁」という枠の中に追い込まれていく。病院・義父・夫・他の介護をする嫁・娘・妻たちからの「仕事をやめて介護するべき」という暗黙の要求。いい嫁と評価されたいという意識と、自分の人生を犠牲にしたいくないという思いの中で苦しむ。

男性にも是非読んでいただきたい。



論争 アンパイドワークをめぐる

上野千鶴子x行岡良治/太田出版/1,600円

1995年の国連世界女性会議(北京)以降、関心と呼ぶようになった「アンパイドワーク」。表題の二人の往復書簡と講演会、学習会記録で構成され、生協活動を舞台に「アンパイドワーク」について考える本書は、決して「よそごと」ではないはず。妥協を許さない論争は厳しいが、納得できることも多い。女性問題の解決にも、生協活動の方向付けにも繋がるキーワードがあふれている。ぜひ一読を。



13歳のハローワーク

村上龍・著、まのゆか・絵/幻冬舎/2600円

子どもの誰もがもっている好奇心を対象別に分類してその先にある仕事・職業を514種も紹介した仕事の百科全書。何も好きなことのない子どものための特別編もある。いい学校を出て、いい会社に入れば安心という神話はくずれた。しかし「好きで好きでしょうがないこと」がやがて仕事に結びつけば、それは広い世界の入り口。子どもたちに未来への夢と希望を与える一冊。

\*西東京市内の図書館にありますのでご覧ください。



エガール

VOL.8 2004年3月

企画・編集 エガール編集委員会  
発行 西東京市市民生活部生活文化課  
男女平等推進係  
〒188 0011 東京都西東京市田無町4 15 11  
西東京市民会館内  
(電話)0424 50 0055  
(FAX)0424 50 0050  
編集委員/市川敏子・古賀節子・齋藤三枝子  
・早乙女とみえ・新宮洋子・古内綾子  
デザイン・印刷/コロニー東村山印刷所

ご意見、ご感想をお寄せください。

100 エガールは再生紙を使用しています。

編集後記